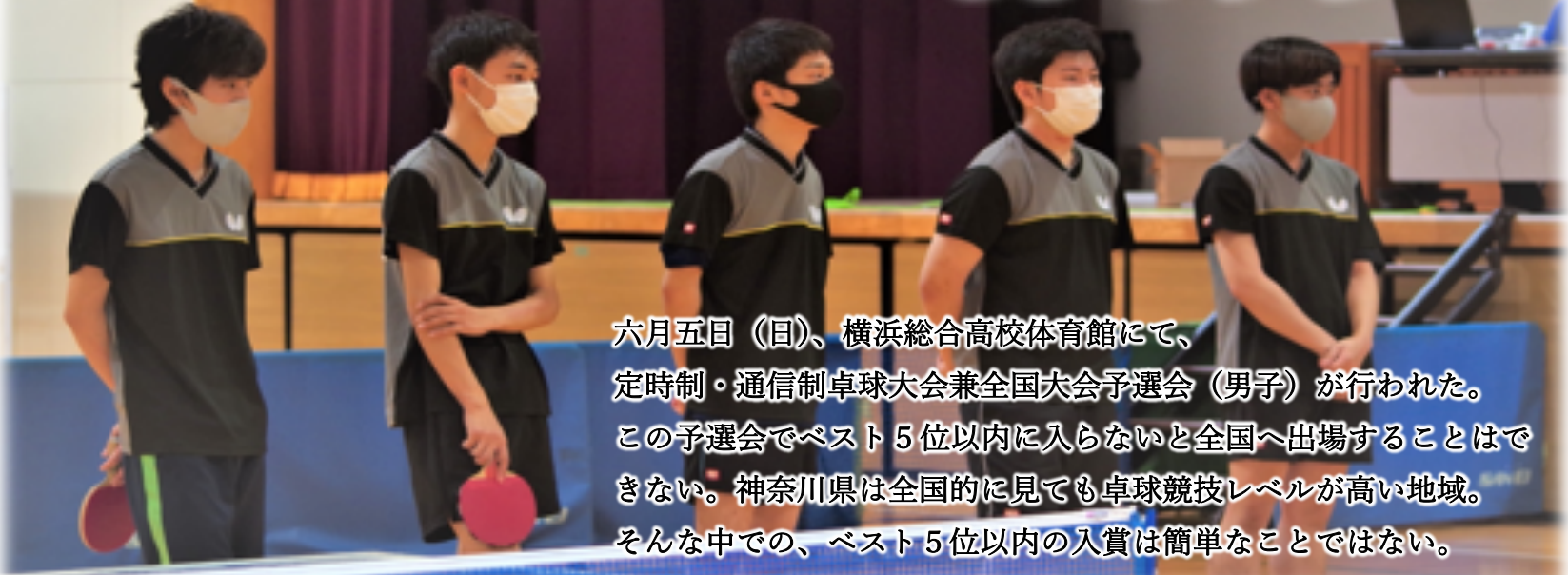


令和4年度神奈川県高等学校 定時制・通信制卓球大会兼全国大会予選会 橘定男子卓球部

惜敗

多手スポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2022.6.23
第 108 号



六月五日（日）、横浜総合高校体育館にて、定時制・通信制卓球大会兼全国大会予選会（男子）が行われた。この予選会でベスト5位以内に入らないと全国へ出場することはできない。神奈川県は全国的に見ても卓球競技レベルが高い地域。そんな中での、ベスト5位以内の入賞は簡単なことではない。

全国大会出場のためには、まず四人一組のAからLまでである各予選リーグを一位突破し、決勝リーグへと進出しなければならぬ。各ブロックには、全国経験選手や実力者が必ず一人以上いる。この予選リーグを突破することを目標に橘定卓球部は練習に励んできた。

そして、秋山・小山・山火・藤本にとっては、最後の全国をかけた戦い、岸にとっては初めての公式戦。自らがもつ力の全てをぶつけてこの全国をかけた戦いに挑む。

五名の選手ともに健闘したが、予選リーグ敗退という結果に終わってしまった。しかし、彼らの成長を確かに感じられる大会であった。秋山選手は戦術的に強打をいかす立ち回りができていたり、小山選手は下回転をかける感覚に磨きがかかりサーブやカットで相手を崩したり、山火選手は積極的に両ハンドでドライブをかけ相手にプレッシャーを与えたり、藤本選手は得意のバックドライブだけでなくフォアドライブでも相手を圧倒したり、岸選手は卓球を初めて半年とは思えないほどに粒高でのブロックが上達したりしていた。

今大会、手も足も出ずに惨敗する試合は一つもなかった。それだけ彼らが日々の練習から頭を使っている技術的な差がある相手だったとしてもどうすれば点を取ることができのかを考えていたからであろう。また、試合だけでなく、そのほかの部分（応援態度や練習態度など）について他校の顧問の先生から、本校の生徒は本当に感心させられる選手たちであると評価していただいている。卓球に向き合う姿勢は彼らの一生懸命さが伝わる素晴らしいものである。今後、卓球以外の場面でも彼らが活躍することに期待してほしい。

（卓球部顧問）
島貫敬太



岸 斗響也（三年）
右ペン粒・前陣攻守型



藤本 虎太朗（三年）
右シェーク裏裏
両ハンドドライブ型



小山 和也（四年）
右シェーク裏アンチ
カット主戦型



秋山 涼太（四年）
右シェーク表裏
前陣速攻型



山火 潤（四年）
右シェーク裏裏
両ハンドドライブ型



バドミントン部

神奈川県代表を目指し、戦いに挑む!

水田 堅（四年）

五月二十八日（土）、横須賀市立横須賀総合高校にて、神奈川県高等学校定時制通信制バドミントン大会予選会個人戦が行われた。本校から、水田堅さんが出場した。

水田堅さん（四年）は、部長として昨年からはバドミントン部を支えてきた生徒である。他の部活を兼部しながら地道に部活動を続け、2年生の部員からも慕われている。

今回の県予選会個人戦には、男子は約80名の生徒が出場した。今大会で個人12位以内に入賞すれば全国大会へ出場となる。

初戦の相手は、1回戦を勝ち上がった集英高校の選手であった。第1ゲーム、水田さんのサーブから試合が始まり、調子よく4-1とリードして、順調な滑り出しであった。その後ネットへのミスなどがあり、同点に迫いつかれ後半はそのまま押し切られてしまった。

いよいよ第2ゲームである。順調な滑り出しで、前半は5-1とリードして、後半戦は粘りのある試合展開であった。7-7から1点ずつの取り合いになり、一進一退の攻防が続いたが、最後は15-13で残念ながらゲームセットとなってしまった。勝負には敗れたものの内容の濃い、十分に健闘した試合であった。

（バドミントン部顧問 斉藤哲哉）

